ADS 環境設定

リファレンスマニュアル

○対象製品

・ADS-win/ADS-LAX/ADS-LA

・ADS-BT for Revit

・ADS-BT for ARCHICAD

・ADS-BT for Vectorworks

平成 29 年 7 月版
生活産業研究所株式会社

本システムは ADS シリーズ製品の与条件設定時等に必要となる情報（緯度経度・高度地区）を共通で管理するプログラムです。

○対象製品
・ADS-win/ADS-LAX/ADS-LA
・ADS-BT for ARCHICAD/ADS-BT for Revit/ADS-BT for Vectorworks

※システムのバージョンによって対象が異なります。
※Mac 版（ADS-BT for ARCHICAD/ADS-BT for Vectorworks）は、それぞれのリファレンスマニュアルをご覧ください。（各 ADS-BT の windows 版も各リファレンスマニュアルに記載されています）

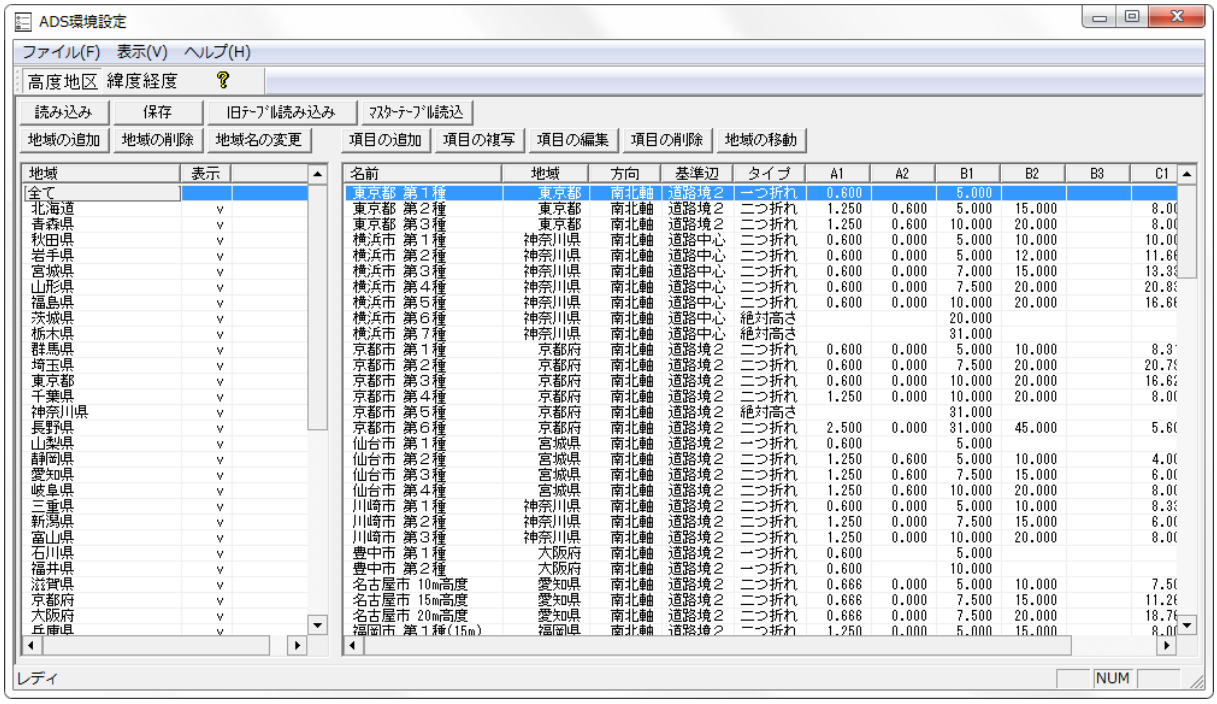
■ADS 環境設定でできること

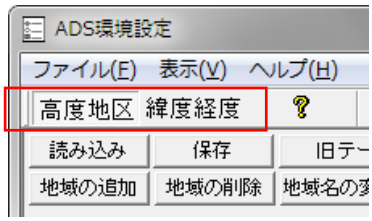
“ADS 環境設定”では以下の内容を共通管理することができます。

○高度地区
○緯度経度
※対象製品の条件設定において上記条件を共通で利用することができます。

■プログラムの起動

通常は、各システムの“高度地区又は緯度経度”設定内にある“環境設定起動”より起動させます。
※スタートメニューより、“ADS 環境設定”を単独で起動させることもできます。



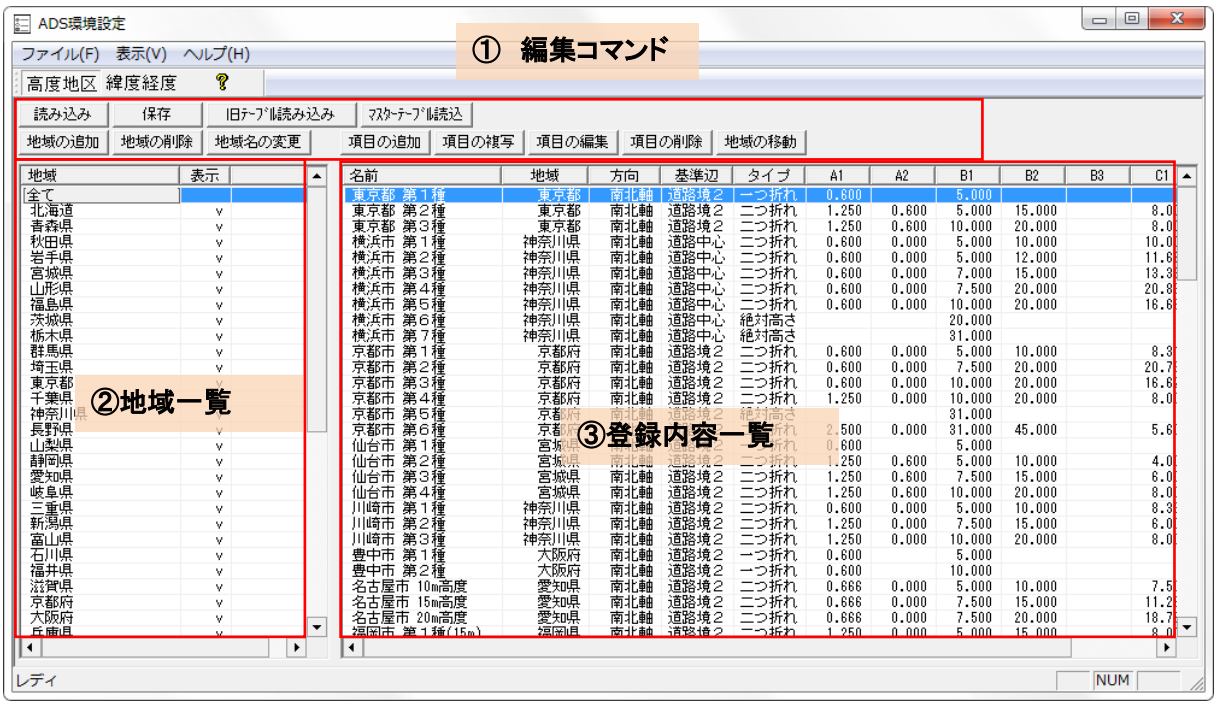


“高度地区/緯度経度”の何れか表示（切替）させて設定を行います。

※Mac 版（ADS-BT for ARCHICAD/ADS-BT for Vectorworks）は、単独起動にはなりません。
高度地区及び緯度経度からそれぞれ編集用 DLG が起動されます。

［高度地区・緯度経度］

ADS シリーズの高度地区及び緯度経度設定を必要とするシステムの高度地区及び緯度経度を管理します。



① 編集コマンド

・“地域一覧/登録内容”に関して各種編集を行います。

② 地域一覧

・地域（47 都道府県）の一覧を表示します。
・管理し易くするための本システムのみの設定です。
・通常は編集する必要はありません。

③ 登録内容一覧

・登録内容を表示します。

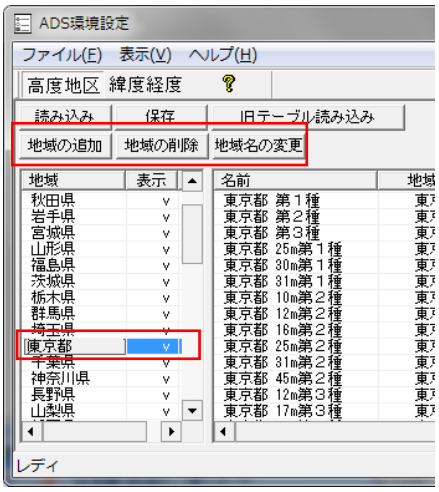
○地域一覧

登録内容を全て見たい場合は、最上部の“全て”を選択します。
地域（都道府県）単位で一覧を見たい場合は、目的の地域（都道府県）を選択します。

任意の地域が選択されると、編集コマンドの

・地域の追加
・地域の削除
・地域名の変更　　が選択可能となります。

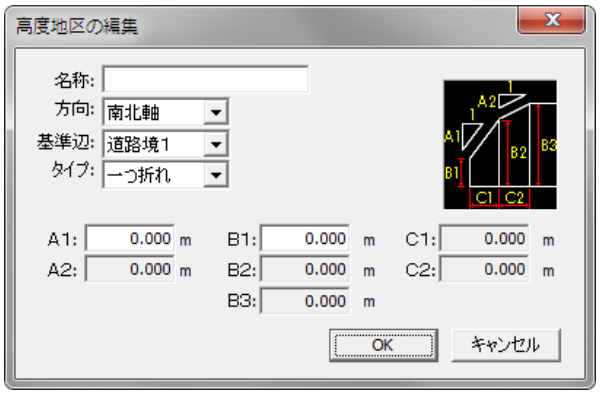
※通常は利用しません。



■目的別作業

○新規に登録する ［項目の追加］

・“項目追加”ボタンで高度地区又は緯度経度を新規に登録します。
・予め“地域一覧”で目的の地域(都道府県)を選択しておかないと“項目追加”が選択できません。



高度地区・緯度経度それぞれで設定内容が異なります。
・高度地区

名称		任意入力
方向	南北軸	真北方向に高度斜線がかかる(通常はこちら)
	辺垂直	各辺から垂直方向に高度斜線がかかる
基準辺	道路境 1	敷地辺と道路との境界
	道路境 2	道路境界の反対側(通常はこちら)
	道路中心	道路の中心
タイプ		斜線のタイプ選択、勾配の数値を設定 タイプによって入力欄数が異なる

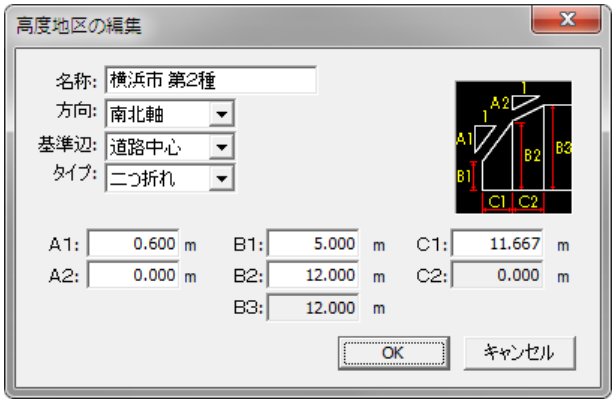
○登録項目を複写する ［項目の複写］

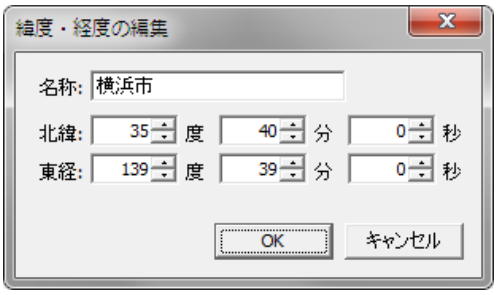
・登録内容一覧にある項目を複写します。
・予め“登録内容一覧”で複写元となる項目を選択し、“項目の複写”を選択します。
・選択された項目内容のダイアログボックスが表示されますので、部分修正等を行います。
（表示されているダイアログボックス内の項目を一部でも変更しないと確定できません）

項目の追加 項目の複写 項目の編集 項目の削除 地域の移動

○登録内容を編集する ［項目の編集］

・予め“登録内容一覧”で編集対象項目を選択し、“項目の編集”で既存登録項目の編集が可能です。





※選択された項目の情報が表示されます。

○登録項目を削除する ［項目の削除］

項目の追加 項目の複写 項目の編集 項目の削除 地域の移動

・登録内容一覧にある項目を削除します。
・予め“登録内容一覧”で削除したい項目を選択し、“項目の削除”を選択します。

○登録項目の地域を変更する ［地域の移動］

項目の追加 項目の複写 項目の編集 項目の削除 地域の移動

・登録内容一覧にある項目の地域を変更します。
・予め“登録内容一覧”で地域を変更したい項目を選択し、“地域の移動”を選択します。
・移動先の地域を設定するダイアログボックスで設定します。

○データを保存する ［保存］

保存

・編集したデータを保存します。
・“保存”を選択します。
・“保存”を選択し忘れた状態でプログラムを終了しようとした場合も、保存を促すダイアログボックスが表示されます。

○元データを読込む ［読み込み］

読み込み

・今までの編集内容を放棄し、起動時の状態のデータを読込みます。
・保存を選択した後に読み込みを選択した場合は、最新の状態のデータを読込みます。

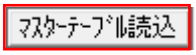
○旧データを読込む ［旧テーブル読み込み］

旧ﾃｰﾌﾞﾙ読み込み

・従来の ADS シリーズで管理していた高度地区・緯度経度の情報を読込みます。
（編集が保存されていない場合、起動時の状態に戻ります）
・PC 内の情報を自動的に読込みます。
・名称及び各パラメータの一部でも値（文字）が異なる場合は別項目として読込まれます。

○プログラムを終了する ［アプリケーションの終了］

・ADS 環境設定を終了します。
・プルダウンメニュー/ファイル/アプリケーションの終了を選択します。



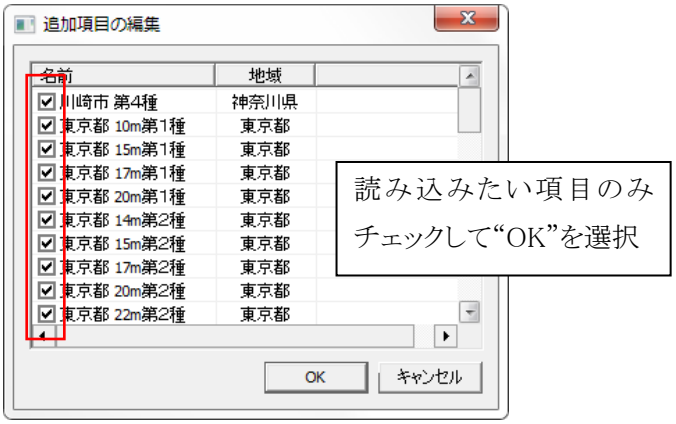
○差分データを読込む ［マスターテーブル読込］

・生活産業研究所より配布された更新プログラムにより差分データがある場合に使用します。

★差分データの読込

・”マスターテーブル読込”を選択すると、“追加項目の編集”ダイアログボックスが開き、差分のリストが表示されます。読み込みたい項目をチェックして“OK”を選択します。
（デフォルトは、全てチェックされた状態になっています）

※“マスターテーブル読込” 選択直後



※現在システムで使用しているテーブルファイルと内容が異なる場合のみ差分のリストが表示されます。

○他の PC に保存されているテーブルファイルを使用する場合

・他の PC 等で作成された環境設定のテーブル（データ）ファイルを使用する場合は、テーブルファイルを手動でコピーする必要があります。

［テーブルファイル名］
環境設定.xml

［現在使用しているシステムで利用しているテーブルファイルの保存場所］
・各 PC で登録されたものは下記フォルダに保存され、製品内の“環境設定を起動”で開かれます。
・windows 版の全製品共通です。
・下記のバージョンは環境設定プログラムのバージョンです。

①Ver1 まで
C:¥ProgramData¥EPCOT Software¥ADS Series

②Ver2.00(今回)より
C:¥Users¥（ログイン名）¥Documents¥EPCOT Software¥ADS Series

使用したい PC の上記の②のフォルダ内に“環境設定.xml”ファイルを上書きしてください。

※上記の場所にファイルが無い場合は、デフォルト(出荷時)のまま利用されていますので
そのままコピーしてください。